

一斉清掃

強雨について実施



協力ください
各家庭での分類

意地悪い「雨」がバケツをうつしたように強く降った六月十一日、恒例となった「一斉清掃」が予定どおり市内各地で行われました。

この日のために、各地区の衛生委員や河川監視員、各種協力団体などのみなさんのご協力で、市をあげて「きれいな南園市」づくりのための方法を話し合ってきましたが……あいにく雨。

このため、一部の地区では清掃を中止しましたが、後免町や植生などでは多勢の人たちが出て溝や道端のゴミをかたづけました。

市の幹部職員も早朝より、集められたゴミを車に積み込む作業を担当、雨天ながら約百トンのゴミが集められ、改めてその多さにおどろかされました。

清掃に参加していただいた地元のみならず、協力団体のみならず、どうも「苦勞さまでした」。

市では現在、台所のゴミなどの「一般家庭ゴミ」を各家庭毎週二回、ビンやガラス類などの「不燃物」を毎月一回、それに資源ゴミとして「金属類」を毎月一回木曜日、の収集日を決めてゴミ処理にあたっていますが、各家庭での分類はまだ不十分のようです。

衛生委員さんとの連絡を密にし、今までのともすれば「わが家がきれいになればよい」から進んで「市全体をきれいにする」よう一人ひとりが心がけるようにしたいものです。

「ゴミの減量化」が望まれる今日、できるだけ家庭で処理をしようというものだけを出すことの検討も必要ではないでしょうか。

国民年金

年金額などを引上げ

—改正された国民年金法—

福祉年金		拠出年金	
老齢福祉年金	198,000円(180,000円)	老齢年金	《25年納付》455,100円(426,700円) 《10年年金》287,100円(269,100円) 《5年年金》210,100円(196,900円)
障害福祉年金	《1級》297,600円(270,000円) 《2級》198,000円(180,000円)	障害年金	《1級》577,600円(541,500円) 《2級》462,100円(433,200円)
母子・遺児年金	《子供1人》258,000円(234,000円) 《子供2人》282,000円(258,000円)	母子・遺児年金	《子供1人》462,100円(433,200円) 《子供2人》486,100円(457,200円)

現在、一カ月二千七百三十円の保険料が、来年四月から三千三百円に引上げられます。

引上げられます。年金額は次のとおり。なお、(一)は現在の年金額です。

ゴミの分類は

- 《一般家庭ゴミ》……毎週2回
 - 台所のゴミ…水切を十分に小袋などに入れ指定袋で。
 - 木くず、家具、皮、布、ふとん、カーペットなど…50-60cmに切ってヒモでしばる。
 - 紙類…ヒモで十文字にしばる。
 - 一般家庭からのプラスチックゴミ…指定袋で。
 - 《不燃物》……毎月1回
 - ビン、ガラス類…ビンの中はよく水洗いして袋か箱に入れて。
 - 陶器、蛍光灯管、乾電池、その他金属類以外の不燃物…大きいものには縄かけて。
 - 《金属類》……毎月1回(木曜日)
 - 一般金物…カンの中身はよく出して。
 - 家電品、自転車、バイクなどその他の金属類…金属以外のものはとりのぞいて袋か箱に入れる。
- 不燃物、金属類(資源ゴミ)の収集日は市民カレンダーをごらんください。

欧州行政視察を終えて⑫

市長 小笠原 喜郎

ベルリン市は西ベルリンだけでも約百二十万戸のうち、爆撃と市街戦によって約五十万戸が破壊されたので、戦後は住宅の供給と交通の混雑緩和の対策が取りあえずの急務であった。この局の人たちやその先輩は戦禍による八億トンの瓦礫を片づけて道路と住宅の建設に取り組んで来たのである。そこには技術問題、財政問題、残った古い住宅

に任んでいる人の措置、将来残すに値するデザインの問題、住宅と高速道路の騒音との関係等、問題は山積していた。それに対して、二十先、五十先を予想して計画を立て、今もなお着々とそれに沿って進められている。

実行途上には政治的な難題ももちろん起きて来る。まず、巨大なかつての大ベルリン市が東西に分断されて、しかもそれは入り組んだ東部の壁によって複雑な境界線が出来ている。地形によって壁の近くには街も作れないし、従って家も建てられない。西と東に分れているので、かつての大通りは

断絶されているし、効率のよい環状道路も出来ない。交通機関の運営にも支障が多い。運河の利用さえ越境厳禁の境界線を流れている部分があるのでむづかしい問題がともなう。

買物の中心地になるのは東ベルリン、アレキサンダー広場に沿った地域である。市民の集まる地域を買物中心地域(クワダム)、リクリエーション地域(動物園、その他)、文化地域(図書館、美術館)などと目的別に充実しつつある。見本市はすでに二回も開かれているが、将来、さらに名実ともに世界的なものを開催したいし、一九八七年にはベルリン開市七百年式典を大々的に挙行したいと意気込んでいる。

北欧の人々は一般に、家に異常な愛着を持つ。それはきびしい気

候風土のなかに住んでいることから起こるものであるが、「これが自分の家だ」というしつかりした、安心して住まえる家を欲しがらる。仮住居のような安上りの家に住むことを嫌がり、それよりはむしろ、半壊になった、我家の地下室でじつと我慢をする。長年住みなれた家を都市計画のために取り壊さなければならぬときも、納得させるのに大変苦勞する。ただうらやましいことは、西ベルリン市の三分の一は森と牧場と湖である。

何といっても土地に余裕がある。土地の価格は政府によってコントロールされ、家を建てる時は市が半分を持ち、あと半分を公社と個人が持つことになる。子供のいる家庭には庭と木を、老人と独身者にはアパートを、でも箱のよう

保険料の特例納付実施

この特例納付制度の再開は、無年金者が年金を受ける権利を得る最後の機会として設けられたものである。

内容は——現在年金を受けていない明治四十四年四月二日以降生まれの人の強制加入のうち、過去の保険料未納期間について、一カ月四千円でその期間の保険料を納めることができる。なお、この取扱いは今年七月から五十五年六月までの二年間、となっております。

現在、三十五歳をすぎている人は、ご自分が年金からもらえることのないよう資格期間をよく確認して、この機会に年金を受ける権利を確保されますようおすすめます。

なお、今回の改正内容など詳しいことは窓口でおたずねください。

【市民課年金係】